

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	裏界線活用・整備事業	会計	一般会計	事業No.	461	施策順No.	46-006
		事業種別	政策・その他	予算科目	0予算事業		
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり	課等名	商業・市街地活性化課				
施策	46 活気ある街づくりの推進	事業期間	開始	21	終了	24	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	市街地に居住する人、通行する人、市民、来街者					A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	市民数	19年度	20年度	21年度	22年度		23年度
	意図	安全で快適に楽しく通行できる。						
	対象をどう変えるか	歩行者・自転車通行量(まちなか4箇所)	7000	7030	6152	8200		8592
		整備率%(整備済延長/計画延長×100)			0.02	0.12	0.02	0.25
								目標達成度 B
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	22年度については整備は行わなかったが、通り町2丁目-松尾町2丁目裏界線を活用した民間事業に対して支援を行った。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	裏界線の入口整備や路面整備により、潤いある景観の形成を実施するほか、歩行者が安心して安全に歩行でき、且つポケットパークの設置等、楽しい歩行者空間の創出を図る。さらに、裏界線の本質的な機能である防災用通路としてその機能強化を図る。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	裏界線沿道における民間事業の展開への支援	1 支援件数	1 1件
23年度実施計画	裏界線沿道における民間事業の展開への支援 裏界線ポケットパーク整備に向けた合意形成	1 支援件数 2 説明会開催回数	

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	0	0	0	特定財源内訳、補足事項 まちづくり交付金事業(補助率4.5/10)
	起債	県支出金				
		その他				
		一般財源	0		0	
	計(A)	0	0	0		
人件費計(B)	正規職員所要時間		100			
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)		358			
	トータルコスト A+B		358			

4 事業に対する市民や議会の意見

中心市街地活性化基本計画策定の際、市民及び市議会議員が参画。裏界線整備・活用を求める声が多くあった。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	中心市街地に人や物が集まり活気がある状態を目指す	施策の成果指標又はムトス指標	まちなか6スポットの1日あたりの延べ歩行者数(本町1、銀座3、りんご並木、知久町1、駅前、中央通り4)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	裏界線は昭和22年大火の復興により整備された避難路であるが、地域資源として見つめ直し、中心市街地の個性として、活気あるまちづくりの要素として計画づくりを行ってきた。		
	後期に向けた課題	実施に向けて、合意形成を図ること。避難路としての位置づけを保持していくこと。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	中心市街地活性化基本計画への位置づけ。理念の構築。		
	後期に向けた課題	沿線における民間の開発事業に対応していくこと。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	本質的には、路面など道路整備そのものに課題があるわけではなく、沿線民有地の活用こそが主題である。従って裏界線のポテンシャルを上げていくに際し、裏界線自体に過剰な整備を行うわけではない。		
	後期に向けた課題	民間事業への公的支援の検討		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	市道であるため道路整備については、市が実施することが妥当。		
	後期に向けた課題	民間活力を引き込むことが課題であり、市の負担、関与によって課題が解決するわけではない。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてきましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	①裏界線沿線の土地所有者及び事業者。平成21年度りんご並木のエコハウスに接する路線を整備。		
	後期に向けた課題	実施に向けて、関係者への働きかけを行っていく		
全体を通じて	4年間の振り返り	裏界線を地域資源として捉えなおした計画(案)がはじめてできた。		
	後期に向けた課題	1つ1つの箇所に潤いと賑わいを創出するよう、事業実施していく。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------